

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

宮城県 大郷町

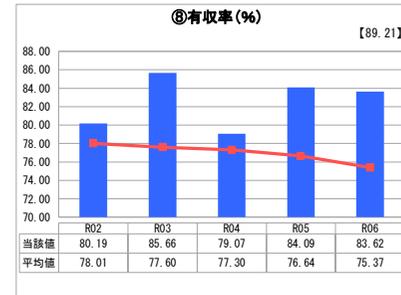
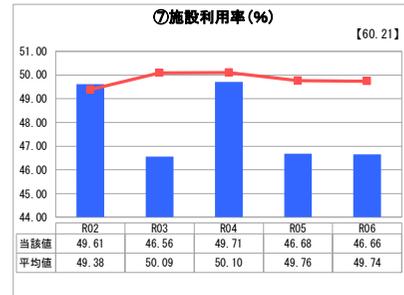
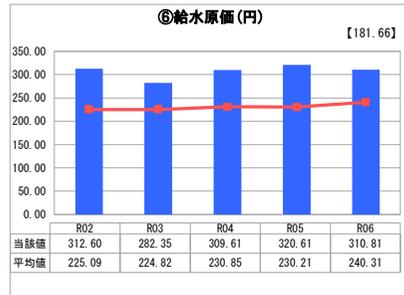
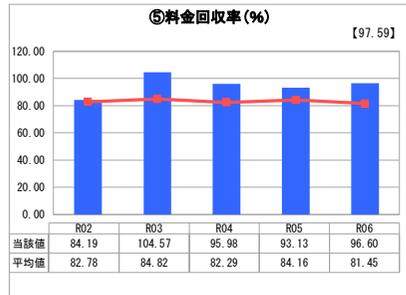
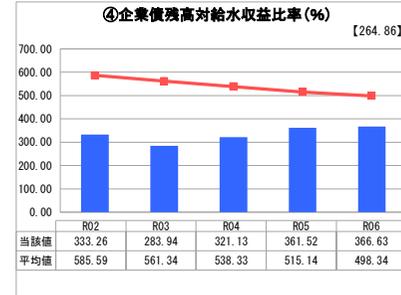
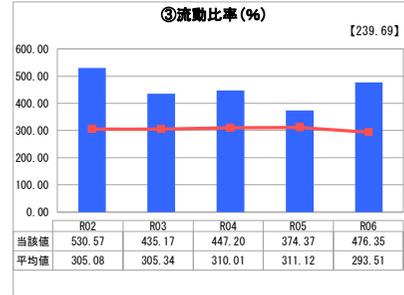
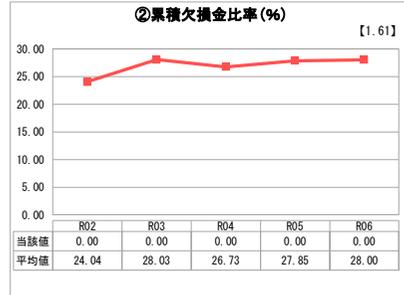
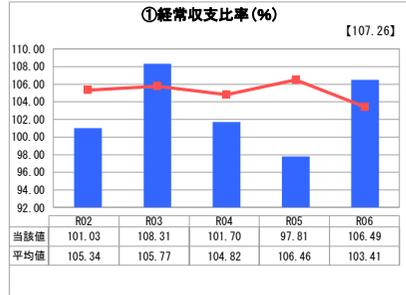
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	63.70	94.94	5,280	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,480	82.01	91.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,086	42.24	167.76

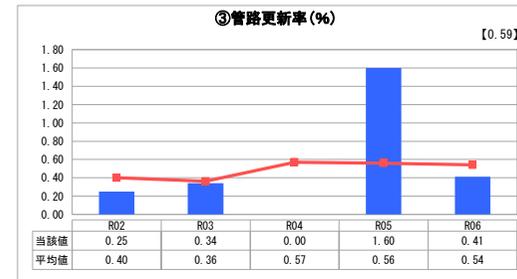
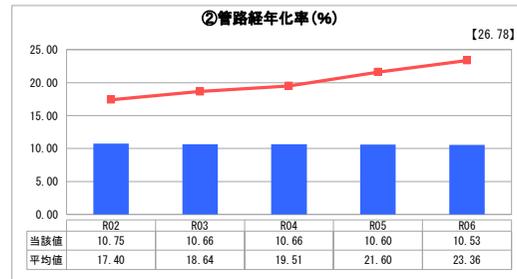
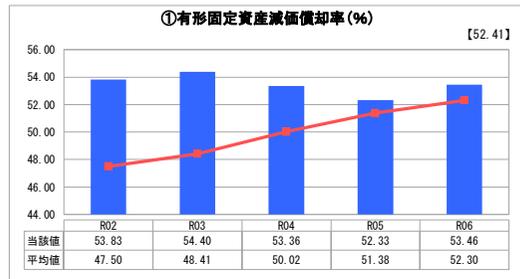
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えているため、経営状況としては安定していると思われる。  
 累積欠損金は0%で発生していない。  
 流動比率は476.35%と100%を超えており、当面の支払能力や資金繰りに懸念はなく、支払能力は確保されている。  
 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値より小さい数値となっているものの、企業債残高は徐々に増加している。  
 料金回収率は96.60%で前年度を3.47ポイント上回った。理由としては、適切な収納対応等によるものである。  
 給水原価については、集落の点在により、配水池に対する給水戸数の割合が低いことや配水施設が6箇所あること等から、類似団体よりも高くなっている。今後、配水施設の統廃合等適切な投資の検討が必要になる。  
 施設利用率は、類似団体と同水準となっている。有収率は前年度を0.47ポイント下回った。理由としては大規模な漏水箇所が複数発生したためである。しかし、衛星を活用した漏水調査を活用し、漏水の早期発見・修繕につながり、減少幅を小さく抑えることができた。今後もより一層地震に強い水道管への整備を進め、有収率向上に努めていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

管路更新率の向上を図るため、引き続き老朽管の更新を行う。しかし、資材や人件費などの原価高騰の影響もあり、工事費が増加傾向にある。  
 本町においては、法定耐用年数を超えた管路も多く保有していることから、水道ビジョンや経営戦略に基づき、計画的かつ効率的に更新を行っていく。  
 また、管路老朽化による計画以外の緊急更新の増加も喫緊の課題である。  
 今後も財源を確保しながら、更新率が類似団体と同程度になるよう、引き続き管路更新を実施していく。

### 全体総括

令和4年度に策定した水道ビジョン並びに平成29年度に策定し、令和6年度に見直した経営戦略に基づき、管路更新を引き続き実施していく。また、石綿セメント管については、企業債、その他管路については該当する補助事業を活用しながら、管路更新を引き続き実施していく。なお、近年は突発的な漏水等が増加しており、管路の漏水調査を継続的に実施するとともに、早期対応による修繕費の抑制を図っていく。また、水需要を踏まえた配水施設の統廃合の検討を進める。